デンマーク国におけるスポーツについての一考察

小　島　一　夫

1．はじめに

バドミントン・デンマークオープン2003に出場するためコペンハーゲンからビルンド市に向かう機上にてデンマークのある紳士と同席する事ができた。彼の名は，ラルス・ニールセン（Lars Dahl-Nielsen)。弁護士，そしてデンマークゴルフ協会の副会長も務める彼と一時間ほどの会話の中で，実に興味深いデンマークのスポーツに関わる話を聞くことができた。

ビルンド空港での別れ際，彼はバックの中から赤い小冊を取り出して，「もし，よろしければお読み下さい。」と筆者にその小冊を贈ってくれた。その小冊のタイトルは「Sports in Denmark」（モルテン・ハンセン　2000）という。

国土面積はおよそ九州〔43,000km(2)〕，人口は千葉県〔528万人〕（青柳栄次　2000）と同じぐらいの小国といってもいい国がオリンピックでのメダル獲得数は，人口比で日本よりはるかに多く，バドミントンにおいては1996年のアトランタ大会以降連続してメダルを獲得している。また，国民のスポーツに対する意識の強さと取り組みに，筆者は以前より興味と畏敬の念を持っていた。

本小論は，20の項目からなる「Sports in Denmark」の内容と，ラルス・ニールセン氏との会話の中から，そして3度のバドミントン大会での遠征で感じたデンマーク国におけるスポーツについての考察を試みた。

2．「Sports in Denmark」について

この小冊は，47ページからなり20の項目で構成されている。まずは，「Sports in Denmark」を要約する。

(1) Sport for All（スポーツ・フォー・オール）(注1)

デンマーク人はスポーツが好きだ。デンマーク人は小さな国であるにもかかわらず，国内のスポーツは，多くの異なるスポーツですばらしい国際的な結果をなし遂げている。しかし，デンマークの人々は，スタジアムやＴＶの前で活躍しているトップの運動選手を単純に応援しているわけではない。デンマークにおいて75％の子供や若者達が，空いている時間をスポーツに費やしており，大人の半分はスポーツや体を動かすことをしています。大部分は，スポーツクラブのメンバーとして，スポーツをする。男の子はたいてい，サッカー，ハンドボールやバドミントンに興味があり，女の

子は体操，乗馬，ハンドボール，そして水泳に興味がある。彼らの多くは成人した後でさえもクラブでスポーツをし続ける。実際のところ，大人たちのスポーツ活動数は，過去30年間の間に３倍に増えている。スポーツへの参加が最も増えたのは，高い年齢層である。ある人々は，個人で体を動かしており，例えばそれはジョギングや水泳または歩くことなどである。クラブによって決められた活動には参加していない。しかし，多くの人々は，14,000のうち１つのクラブ会員に提供される多くの利点をビジターとして，よく利用している。DIF のスローガン「階級，年齢，性別に関係ないスポーツ・フォー・オール（すべての人のためのスポーツ）」という考え方はうまく機能しているように思われる。それを支えているのは物理的な環境を整える公的機関と，エリート選手や単に健康維持目的で運動する人のために活動を行い，その構想を実現するスポーツクラブである。

(2) Legislation and public grants（立法および公の許可）

デンマークにはスポーツを支援する５つの法律がある。

「サッカー賭博，ロトおよび賭け試合に関する条例」はサッカー賭博やロトおよび賭け試合の収益による基金を様々な文化的，人道的目的のために分配することを促進するものである。

「若者と成人の教育に関する条例」は地方自治体がスポーツ活動に奨励金を出したり，屋内外スポーツ施設を貸し出したりすることで地元スポーツを含むレジャータイム教育や活動を活性化させることを目的としている。

「エリートスポーツ促進に関する条例」に基づき，３分の２を政府の財源から得て残り３分の１を独自の財源でまかなう自治組織として，チームデンマークが設立された。

また，厚生省のもとには「ドーピングに関する法律」があり，同化ステロイドや EPO，成長ホルモンなどのドーピング物質の取引を取り締まっている。

そして最後に「国民的重要性をもつ主要なスポーツイベントは国営放送で放映されることを保証する法律」がある。スポーツのための公的資金は年間33億 DKK に[注2]のぼる。それは主に地方自治体からでており，地元スポーツに約27億 DKK 与えられている。また，地方自治体はスポーツ施設の建設や管理の財源（約18億 DKK）を支出し，地元スポーツクラブに活動資金と設備費用として奨励金（約９億 DKK）を与えている。政府はサッカー賭博，賭け試合，ロトの収益金（毎年約５億5000万 DKK）をもとにした基金を通して，DIF や DGI，DFIF，チームデンマークといった国内スポーツ組織を支援している。さらに文部省はそれらのサッカー賭博から得た収益金をもとにした基金のうち約4000万 DKK を，他のスポーツに使用するために分配している。文化とスポーツ施設のデンマーク財団は毎年約5000万 DKK をスポーツおよび文化施設の建設のために分配しており，地方自治体も年間1000万 DKK 程支出し，地域レベルのスポーツを支援している。

デンマークは人口あたりのスポーツ施設数がヨーロッパで最も多い。およそ1200の体育館と，300近くの温水プール，5300の野球場，2000のテニスコート，そして2500のジムがある。しかしスポーツ施設の配分は地域的に偏っていたり，クラブハウスや気軽に立ち寄れる施設が不足していたりする。レジャーや文化的分野で建築的に革新的な建物を建設するのを支援し促進するために，スポーツ組織は文部省と協力し，文化とスポーツ施設のデンマーク財団を設立している。

(3) The sports organization（スポーツ構成）

デンマークではエリートスポーツとすべての人のためのスポーツの両方が文化的構想の重要な特徴だと考えられているので，デンマークの文部省はスポーツに関する責務を担っている。しかしながら，デンマーク政府はスポーツの問題にほとんど干渉しない。デンマークのスポーツは結社の自由に基づいており，独立した自治権をもつ。

全国的にクラブは２つの主要な機構で構成されており，多くの人がその両方に加盟している。主要な機構は次の通りである。

国内56の連盟を統括し，約11000クラブで160万人の会員を抱える「デンマークの国内オリンピック委員会とスポーツ連盟」(DIF)。国内連盟はすべての人のためのスポーツを管理するのはもちろん，エリートの各スポーツも管理している。またそれらの活動は地域的，全国的であるのはもちろん，国際的でもある。同時に，DIF はデンマークの国内オリンピック委員会で，オリンピックのデンマークへの参加に責任を有している。

「デンマークの体操およびスポーツ協会」(DGI) は約5300のクラブに配属されている130万人以上の会員を抱えている。これには DGI の準会員であるデンマーク・ライフル・クラブは含まれていない。DGI の仕事は24の地方自治体協会を通した地方レベルの活動を基本としている。DGI のプログラムには12のスポーツがあるが，DGI は多種目対応訓練スポーツクラブを会員として共に活動しているので，DGI の活動を利用しないクラブでさえも会員として入会することができる。多種目対応訓練スポーツクラブは多くの部門を持つ統括的なクラブや，各スポーツをまとめる独立したクラブによって構成されている。多くの場合，それは DGI が会員として数えた統括的クラブの下にある全ての部門やクラブの集まりだが，国内連盟および DIF の会員である統括的クラブのもとにある個々の部門やクラブであることもある。

さらに，企業チームのスポーツ活動とエリートスポーツ協会であるチームデンマークを組織する「企業チームのためのデンマーク機構」がある。

(4) The National Olympic Committee and Sports Confederation of Denmark — History and Development（デンマークオリンピック委員会とスポーツ連盟—その歴史と発展について）

DIF は1896年の２月14日に設立された。設立メンバーは当時唯一の国内の連盟であったデンマークサッカー機構と，18のスポーツクラブだった。DIF を設立した背景には，アマチュアを統一し，統一された競技規則をつくり，また公権力がもたらすスポーツの利益に注意を払うことができる機関を作りたいという願いがあった。

DIF は数十年前にデンマークにもたらされたイギリスのスポーツに起源を有している。その設立に際し，DIF は９つに異なるスポーツを代表し，約200人のメンバーを抱えていた。それ以降，急速に発展してきた。今日 DIF は56の国内連盟の包括的な機関であり，そのおよそ11000の登録クラブには160万人の会員がいる。

1993年には，デンマークのスポーツ連盟は「国内オリンピック委員会およびスポーツ連盟」(DIF) に名称を変更した。当時までは独立した委員会でオリンピックへのデンマークの参加に責任を負っ

ていたデンマーク国内オリンピック委員会と合併した関係で，名称が変更されたのだった。DIFの基本理念は3つの基礎から成っている。

「あらゆる人のためのスポーツ」

DIFにとってのスポーツとは，年齢や性別，社会的背景や身体能力に関わらず，遊びから身体的活動，冒険，挑戦，競技，そして社会的親睦にいたる全てのものをさす。DIFは自分の心理的および肉体的限界を試したいと願うトップアスリートだけではなく，単に体の調子を整えたいと願う多くの人々の為の機関である。

「自発性の原理」

DIFは国内の連盟やクラブの基盤として，参加者自身に効果と責任が与えられるために，デンマークのスポーツが自発的，民主的，そして文化的であることを維持するよう委託されている。

「自治」

DIFはスポーツの社会的重要性を持つ事項については自治を認めていないが，そのほかはスポーツの自治を約束している。このようにDIFは社会的任務を行うために国家機関と協力している。社会的特権を持たない人たちがスポーツに参加しやすくすることがその一例である。

(5) The organization of DIF（DIFの構成）

DIFは各スポーツまたは同種のスポーツに対し，ただひとつの国内連盟をメンバーとして認める。しかしDIFは次の4つの学際的スポーツ連盟をメンバーとしている。デンマーク身体障害者のためのスポーツ機構，デンマーク労働者のためのスポーツ連盟，デンマーク国立ＹＭＣＡスポーツ連盟，そしてデンマーク軍スポーツ連盟である。

DIFはその傘下の連盟が示す数より非常に多くの競技を抱えている。その理由の一部には多くの連盟が一緒に加盟していることや，国内連盟が新しい競技を集めて正規の活動に組み込んできていることがあげられる。その例としては，ストリートバスケやビーチバレー，プール（ビリヤード），スヌーカー（ビリヤード），エアロビクスなどがある。

DIFのもとにある国内連盟を全て合わせると，100種類以上のスポーツがある。

デンマークでのスポーツはピラミッド構造で構成されている。そのピラミッドの一番上は国内レベルで全ての連盟に関わる共通の利益に関する事項を扱うDIFである。その国内連盟は主として各自のスポーツの国内的事項について扱う。地域的なレベルでは，地域連盟や地元組織を作っている。一般的に地域連盟と地元組織は，地域レベルのトーナメントや大会，および教育的養成を役務としている。地域レベルでは，特に環境と身体的計画を重要な課題としている郡政府と接触をもち，スポーツの共通利益を扱うDIFの郡委員会でもある。市レベルのスポーツクラブの地元機構は地元スポーツクラブを包括するものとして活動する。スポーツクラブの地元機構は，市と接触を持ち地元クラブの利益を世話する。そして一般的にそれらは，地元スポーツに資金を分配する市の委員会において，スポーツ代表の役割を果たす。

(6) The political structure of DIF（DIF の政治的構造）

DIF の政治的な構造は，評議会，理事会および多くの委員会から成っている。「評議会」は DIF の最高権威であり，国内連盟や DIF の理事会，合同連盟，スポーツ連盟及び DIF の委員会の代表者によって構成されている。後ろ３つの組織は投票権を持っていない。その上，選手委員会が2名を指名し DIF の評議会に参加させる。その代表者は国内連盟の代表者と同じ権限を持つ。

50000人に満たないメンバーを持つ国内連盟には投票権を持つ２人の代表者がいる。そして50000人以上のメンバーを持つ国内連盟は，50000人につき１人ずつ，投票権を持つ追加の代表者をおくことができる。評議会は予算会議と年次会議（一般の会議）のために年に２度開催され，DIF の一般的な政策を規定する。評議会は DIF 理事会と委員会のメンバーを選び，DIF の定款の変更を採択する役割を持つ。

11名のメンバーで成る理事会は，DIF の日々の政治的運営事項を責務としている。理事会は，理事長と副理事長，会計係，すべての人のためのスポーツ委員会の議長，エリートスポーツ委員会の議長，各々特別な分野に責任を持つその他４人のメンバー，選手委員会の代表者１名，そして国際オリンピック委員会のデンマーク会員から構成されている。

エリートスポーツ委員会はオリンピックへの参加者やデンマークがオリンピックに参加することを決定している。一方，すべての人のためのスポーツ委員会は，スポーツに関する特別な構想や計画に使うための資金を，連盟やクラブに分配している。

訴えと調停のための委員会は，DIF 下にある人やクラブ，連盟間の諍いを解決する。法務委員会は評議会によって採択された修正案が DIF の定款に反しないように正式に実施されるよう努める。

ドーピング法廷は DIF の反ドーピング規定違反に関する全ての問題において，判断を下す。選手委員は過去12年間にオリンピックに参加したことがある選手の中から選ばれる。選手委員は DIF のエリート選手委員２名を指名するのに加え，DIF の理事会メンバーを指名する。さらに多くの委員と活動グループが，特別な課題を扱い，日常の機能を果たすために DIF の理事会によって指名される。このような委員会の一つが DIF 反ドーピング委員会であり，ドーピング法廷に持ち込まれる前のドーピング事件を摘発・追求する役割を果たす。その他の委員会としてはメディア委員会もあり，テレビの放映権の交渉を行ったり放映による収益を分配したりしている。

(7) DIF's economy（DIF の経済）

DIF が受けている融資のほとんどは，サッカー組合の収益や株式会社デンマークサッカー組合が行う賭けやロトの収益からなる基金によるものである。DIF は毎年およそ２億5500万DKK（デンマーククローネ）を受け取っており，そのうちの2800万 DKK はチームデンマークとデンマークサッカー機構に充てられる。DIF がチームデンマークに与える規則上の補助金は，チームデンマークがスポーツを行うための自己調達資金の重要な一部であり，1800万 DKK にのぼる。DIF がデンマークサッカー機構に与える規則上の補助金は1000万 DKK にのぼり，それは組合の優待券におけるサッカーの試合の有益性に対する報酬だとみなされている。

DIF の資金のうち75％近くは様々な目的のために分配される。52.4％は国内連盟の固定業務を行

う奨励金として使われ，9.8%は国内連盟の特別な目的のための奨励金としてあてられ，そして上記で述べたように7.6%はチームデンマークへの奨励金とされる。

残りの25%はスポーツの家の運営に6.5%，DIF の経営に12.9%，そして6.5%はその他の活動に使われる。その例としては，DIF の移民や難民に対する特別な活動や，コペンハーゲンでのスポーツ環境の向上や，オリンピックへの参加，国内・国外での会議，ドーピング管理，郡委員会やその他の機関への奨励金などがあげられる。

(8) The tasks of the national federation（国内連盟の仕事）

国内連盟は構成団体であるスポーツを取りまとめる統治機関である。そして国内連盟は国際試合及びレフェリー，コーチ，指導者の訓令を行えるよう機能する。大きな連盟ではこれらの業務の多くが，国内連盟の地域連盟や地元組織と協力をして実施される。国内連盟の財政事情は各連盟によってさまざまである。典型的に小さい連盟では，デンマークサッカー企業連合からのみ融資をうけている連盟もある。スポンサーから巨額の個別資金を調達している連盟もある。デンマークサッカー協会も巨額の収益をテレビの放映権から得ている。テレビ放映で得たサッカーの収益の多くは，デンマークサッカー協会のもとにあるアマチュアサッカーとは切り離されて運営されているプロのスーパーリーグに送られる。

国内連盟はその資金の多くをクラブやメンバーとエリートのスポーツ活動に使用する。しかし国内連盟のエリートが多くの注目を集めるにもかかわらず，国内連盟は主に毎週数千人のデンマーク人が参加する大規模なトーナメントや大会組織を実施する。

例として，デンマークサッカー協会のもとで，あらゆる世代とあらゆるレベルの人のために毎年19万のトーナメント試合が実施されている。デンマークハンドボール協会のもとでは９万2000のトーナメント試合が毎年行われており，最も小さい連盟でさえトーナメントや大会の活動は広く行っている。トーナメントや大会はとても多くの年齢層やレベルに合わせて用意されているので，スポーツクラブにいる選手にとって連盟の会員であることは，単に当然のことと認識されている。

(9) Special initiatives to promote sports for all（すべての人のためのスポーツを促進する特別な構想）

国内連盟によって提供されるサービスは，絶えず進歩している。毎年さまざまな新しい企画が異なるスポーツで始められている。これらの企画は DIF および国内連盟が90年代初頭から優先的に取り組んでいるすべての人のためのスポーツを促進するための，特別な努力に部分的に貢献している。DIF はとりわけスポーツクラブへの連盟のサービスを強化し新しい企画を始めるために，すべての人にとってのスポーツコンサルタントシステムを創った。今日およそ80人のコンサルタントがその計画に加わった36の国内連盟に雇用されている。さまざまなプロジェクトを支援するための経済的援助を伴ったこの計画によって，子供や若者の活動により多くの注目が集まるようになった。例えば，様々なスポーツの子供のためのスポーツスクールが毎年用意されており，３万5000人もの子供たちが参加している。デンマークのサッカースクールだけで，一週間をサッカーとともに過ごしたい少年少女を毎夏２万5000人も集めている。またハンドボールやテニスのスクールも毎夏多くの子

供をひきつけている。

ヨットに関しては，ローイングやカヌー，カヤックなどといった特に子供や若い選手向けにつくられた新種のボート競技がつくりだされている。ヨットクラブや若いメンバーをひきつけるためにボートを取り入れている。バスケットボール連盟およびバレーボール連盟は各自のプログラムにストリートバスケとビーチバレーを含めた。そして毎年何千人もの若者をひきつけるトーナメントを行っている。デンマークの自動車スポーツ団体は，クラブの子供や若者にゴーカートを貸し出している。

最後に言及しておくべきは，DIF が140のクラブと協力して子供たちのためにスポーツの質を高めることを目的とするプロジェクト「子供のための良いスポーツ環境計画」をうちだしていることである。スポーツを促進する努力は，年配者のスポーツへの注目を高める結果をももたらした。特にデンマーク労働者スポーツ連盟は，全国的に年配者のスポーツプロジェクトを始めたことによって成果を出した。

(10) The Danish club model（デンマークのクラブモデル）

デンマークは協会が多くある土地柄である。特にスポーツにおいては，集まってクラブを作るという考えが根付いている。今日 DIF は約１万1000のメンバークラブを抱えており，個々のクラブのメンバー数は様々である。最も大きなクラブは，体操のようなフィットネススポーツや水泳，ゴルフの中にある。そこには平均で400～500人のメンバーがいる。最も小さなクラブはフェンシング，卓球，トランポリン及びボクシングのようなスポーツの中にある。これらのスポーツには典型的に30～40人のメンバーがいる。デンマークのスポーツクラブはボランティアと無償で活動する指導者，インストラクターの仕事に頼っており，又民主的な意思決定機関によって運営されている。クラブは特定のスポーツが好きで，そのスポーツがある社会生活に共通の想い入れを持つ人が集まることで設立された。クラブにはその仕事に関与する20万人以上のボランティアがいる。

(11) The economy of the sports club（スポーツクラブの経済）

30年前はスポーツクラブが多かれ少なかれ自己投資であった。1960年代の末からは，地方自治体の資金を受け取っている。ある部分では直接的奨励金としてまた，ある部分では間接的奨励金としての資金である。というのも大多数のデンマークのスポーツ施設が，地方自治体の所有物だからである。クラブの経済はそれでもまだメンバーからの登録料や寄付金，ロトによる収益などに主に基づいている。一方でスポンサーから巨額の資金を受けられるのはサッカーやハンドボール，アイスホッケーといったエリートクラブだけだ。デンマークにいる多くの子供や若者を指導する充分なボランティアの指導者やトレーナーを生み出すことは時には困難であるが，デンマークのクラブモデルは今だに盛んである。過去10年間においてだけでも DIF は1600以上の新しいクラブをメンバーに加えた。それは特に小さなスポーツが多かった。文部省の主導で行われた調査によると，クラブは DIF や国内連盟が提供するサービスをうまく活用できていて，概ねクラブはそのサービスに満足しているということだった。クラブは特にトーナメントや大会，講習会に参加するという利益を得て

いるが，最近はDIFが提供するコンサルティングサービスがますます多く利用されるようになってきている。クラブは特に，法的な問題や教育的問題に対するアドバイスや，新しいプロジェクトへの助成，保険や損害に関する問題の補助，スポーツや環境に関する問題のガイダンス，そして若者と大人の活動に関するガイダンスを必要としている。

(12) The Danish elite model（デンマークのエリートモデル）

1984年にデンマークの議会は「エリートスポーツ促進活動案」を可決し，トップアスリートの環境を改善し，デンマークのスポーツを国際的に強化しようという国家の目的を表明した。エリートスポーツを目指して改善された方法は，デンマークの社会モデルに応じて受け入れられるべきものだと考えられた。エリートスポーツの自己統治機構であるチームデンマークの主な業務は，「主導的役割を果たし，全体を調和させて，社会に役立つ方法でエリートスポーツ共通の効果的な方法を生み出すこと」だ。

チームデンマークが存在した15年間に，デンマークのエリートスポーツは顕著な成果を達成した。チームデンマークやDIF，国内連盟との親密な協力によってさまざまなスポーツで大きな進展が見られた。国際大会で獲得するメダルの数はほぼ二倍に増え，国内連盟に所属するメダリストの数もまた，ほぼ二倍に増えた。エリートスポーツへの注目に伴って，トップアスリートへの教育も力が注がれている。それはエリートアスリートが現役を引退した後の活躍の可能性をつぶさないためのものである。

チームデンマークは年間およそ1億1500万DKKの予算を持っている。政府は6700万DKKほど，チームデンマークの収入にするために支出している。DIFはおよそ1800万DKK寄付している。スポンサー料およびテレビ放映権からチームデンマークの2500万DKKの収入が得られる。その他にも交付金や個別の収入によって500万DKKが得られる。チームデンマークのエリートスポーツ支援は国内連盟がエリートスポーツのために使用する財源と深くかかわっている。国内連盟はチームデンマークから毎年8000万DKKの財政支援を受けているのだ。この財政支援はエリートスポーツセンターの活動のため，トレーニングやコーチ，研究奨励のため，そしてトップアスリートへの直接的寄付金のためのものだとされている。そして国内連盟は約5000万DKKを寄付することでこの活動の財源援助しており，またそれは才能ある選手やトップアスリートとなる可能性のある人々を支援することになっている。

(13) The Olympic Games and the Olympic Movement（オリンピック競技とオリンピックの動き）

DIFの理事会は，デンマークオリンピック委員会を兼ねており，デンマークのオリンピック参加に関する全ての決定権を有する。したがってDIFはオリンピックに参加するためのデンマーク独自の基準を定める。その基準はDIFのエリートスポーツ委員会からの推薦に基づいて決定される。エリートスポーツ委員会からの推薦に先立って，オリンピックの約3年前のDIF評議会で，一連の一般的なデンマーク選手の選択基準が決定される。オリンピック競技にあるスポーツの国内連盟だけがこの問題で投票する権利がある。一般的な基準は各スポーツで特定の選択基準を決めるための背

景となり，DIFのエリートスポーツ委員会が出場資格獲得条件を決定するために行っている，個々の競技連盟との交渉に基づく。各スポーツの具体的な出場資格獲得条件は，DIFのエリートスポーツ委員会と当該国内連盟により受諾と署名を受け同意を得，最終的にDIF理事会に認められることによって定められる。選抜基準を定めるための国内連盟との交渉中に，チームデンマークも相談を受けるので，DIFのエリートスポーツ委員会におけるチームデンマークの代表者を通して，最終的な資格獲得条件に影響を及ぼすことができる。

DIFは少なくともその基準を満たすこととされている各競技に関する一連の基準を決めるとともに，国内の資格獲得条件も決定する。その基準とは(1)オリンピックで決勝に残ること，(2)実質的に決勝のない競技で8～10位以内に入ること，(3)個々の競技で3位以内に入ることである。いずれ場合もスポーツ選手が国際オリンピック委員会（IOC）の定める国際的な資格獲得条件を満たしていることが，オリンピック参加のための条件だ。しかしほとんどの場合，デンマークの資格獲得条件は国際基準よりも厳しくなっている。

オリンピックに関する立案や準備の段階では，オリンピックの候補および彼等の属する国内連盟に対しチームデンマークが助言を提示し，財政支援を行う。実際のオリンピック参加全体を通した計画や選手の移動，オリンピックのチームユニフォーム，オリンピックスタッフなどはDIFによって手配される。オリンピックへのデンマークの参加を担当していることに加えて，DIFはより広い範囲でオリンピックに関する事項を取り扱っている。DIFの中にあるデンマーク国立オリンピックアカデミーは，多くの業務に携わっている。そのアカデミーはオリンピックおよびオリンピックの動向に関する情報誌および教育関連の資料を出している。またアカデミーは最近のオリンピックに関する問題について話し合うセミナーや討議会を実施している。アカデミーは年次のオリンピックアカデミー会議を行い，毎年若いデンマーク人スポーツのリーダーを国際オリンピックアカデミー会議に行かせている。また，若いデンマーク人アスリートを，オリンピックに関連して行われるオリンピック開催都市での国際ユース大会に参加させるために派遣している。

(14) International relations（国際関係）

デンマークスポーツの国際関係は主に5つの部分に分かれている。国内連盟は当該世界連盟におけるデンマークの代表である，例えばデンマークサッカー機構はヨーロッパサッカー連盟（UEFA）や国際サッカー連盟（FIFA）の会員である。世界連盟は1つの国の1つのスポーツに付き，1つの国内連盟しか認めていない。世界連盟は「1つの国内連盟につき，1票の投票権」の原則に基づいて民主的に組織されており，デンマークの国内連盟は国際基準で定められたルールと規則を守ることになっている。DIFはデンマークの国内オリンピック委員会としてヨーロッパオリンピック委員会（EOC）や国内オリンピック委員会機構（ANOC）の会員となっており，そしてオリンピック憲章に従っている。EOCやANOC，世界連盟は異なり，IOCは「1国1票」の原則に基づいていない。今後数年以内にすでに採択された多くの構造改革案が実施された後は，IOC議会は15人の選手と15人の世界連盟の代表者，15人の国内オリンピック委員会の代表者，そして残り70人のIOC議会で選ばれた個人会員からなる115人で構成されることになる。またDIFは国内のスポーツ管理組織

として，ヨーロッパ非政府スポーツ組織（ENGSO）などといった他国の国内スポーツ組織と協力しあっている。この協力には，中央ヨーロッパや東ヨーロッパの諸国の発展を支援する活動も含まれている。

政府間レベルでは DIF はヨーロッパ評議会のもと，文部省と協力してドーピング撲滅や開発問題，観客の暴動問題などに取り組んでいる。EU レベルでもスポーツに関する活動や課題が増えてきている。DIF はヨーロッパ委員会やヨーロッパ議会に直接交渉したり，文部省や EOC および ENGSO といった国際スポーツ組織を通したりして，デンマークスポーツのための利益を確保する。また，DIF はバルト三国の発展を目指すプロジェクトや援助に参加するという形で，他国と数多くの双務的な協力関係を築いている。

(15) The social responsibility of sports（スポーツの社会的責任）

DIF はスポーツに参加すること自体に意味があると考えている。DIF はスポーツを社会性や健康を促進する手段だとは考えておらず，スポーツに携わりたいと考えスポーツをすると幸せになるという理由で人々が集まる，文化的活動だと考えている。しかしスポーツは新しい仕事や友人関係を築くことができるすばらしい国民的活動であるため，DIF はスポーツがより団結力のある社会を生み出すことに貢献できると認識している。DIF とその国内連盟やクラブは，スポーツへの参加を通してデンマーク国内の社会的弱者のために行われる企画に参加している。

例えば，DIF が1971年の設立に協力した身体障害者スポーツのためのデンマーク機構は，身体障害者の活動において大きな役割を果たしてきた。2，3年間で2万人近くの会員がその連盟に加わり，デンマークの身体障害者スポーツのエリート部門も，世界トップクラスであると証明して見せた。DIF はデンマーク社会にやってきた難民や移民を統合する仕事も手がけており，精神障害者や社会的弱者である若者，失業者などのためのプロジェクトも手がけている。公的機関と協力しながら，DIF はスポーツ環境を持続可能なものとするための健康促進キャンペーンや活動を行っている。

(16) Education and research（教育と研究）

DIF と国内連盟は非常に多くの教育活動を行っており，数多くの項目における様々な種類の講座がある。DIF はより包括的で誰でも行えるトレーニングや指導者およびインストラクターの指導を行っているのに対し，国内連盟はより具体的なスポーツのトレーニングや教育に従事している。毎年2万人近くが経営や指導，スポーツ心理学，子供や若者のスポーツ，女性とスポーツ，そしてスポーツによるケガについてなどの講義に参加している。またその他2万人は国内連盟が実施する各スポーツの講座に参加している。

DIF と国内連盟は多種多様な本やパンフレット，ビデオなどの教育資料を開発し出版している。DIF はこれらの本やパンフレット，ビデオを毎年5万部以上売り上げている。

最新の分野や新しい授業に合った話題適合するように，絶えず新しい講座が新設されている。ここ2，3年で上級スポーツインストラクターのためのコースおよび，競争ではなくプレー自体に重点をおいた様々なスポーツに参加する機会を子ども達に提供できるよう普通のスポーツコースを新設

してきた。

スポーツ研究では，DIF およびチームデンマークはエリートスポーツやすべての人のためのスポーツに関する新しい知識を生み出すことに役立つ研究のプロジェクトに資金を与えている。DIF およびチームデンマークは，文部省によって財政管理されているデンマークスポーツ研究評議会に参加している。その評議会では，スポーツ研究における特定の注目される分野にいくらくらい割り当てるかを話し合う。

(17) The fight against doping（薬物ドーピングとの戦い）

デンマークの反ドーピングシステムは，国内法とヨーロッパ評議会の反ドーピング協定の理念を実施するようにつくられている。ドーピングテストを行う管理当局「反ドーピングデンマーク」と，選手を起訴すべきかどうかを決定する検事当局「反ドーピング委員会」，そして判決を下す司法当局「ドーピング法廷」は互いに独立した機関で，システムの独立性を保つために検事当局と司法当局は国内連盟の管轄外に置かれている。

反ドーピングデンマークは年間1100万 DKK の予算で 1 000件ほどのドーピングテストを実施しているが，テストの実施件数は数年以内に 2 倍に増える予定だ。その対象は主に DIF 所属のエリートスポーツ選手であるが，軍や刑務所，プロスポーツ界などで行われることもある。反ドーピング委員会は DIF 理事会の会員を議長とし，2 人の医学専門家，法律専門家および選手代表から成り，選手を起訴するか否かを決める専門的な働きをする。有罪が強く疑われる時間は，ドーピング事件の第一審法廷である DIF のドーピング法廷に起訴される。被告には弁護士がつき，原則として公開法廷で審理される。ドーピング法廷の判決や量刑は IOC の提示する禁止薬物のリストや罰則規則に基づいている。重い判決としては 2 年間の大会出場停止処分もあるが，場合によっては期間が短縮されることもある。エフェドリンやカフェインの使用に対する罰則は最長 2 ヶ月だ。指導者やインストラクター，医師など選手にドーピングをするよう勧めて使用させた者は最長 5 年の活動停止処分になる。DIF の上訴および調停委員会には最高裁判所裁判官を含む 5 名がおり，ドーピング法定の判決に対する上訴審を行う。またデンマークは高水準のドーピング管理を行う国際反ドーピング機構（IADA）に加盟を許されたばかりであることにも言及しておく。

1998年のドーピングスキャンダルを受けて，デンマークでは 7 回もの調査が行われ，7000人以上が調べられた。その結果デンマーク人のドーピング使用経験は一般的にとても少ないということが分かった。14の国内連盟で955人のトップアスリートに対して行われた調査では，1.3％が筋肉増強ホルモンを使用したことがあり，その他の薬物の使用を試みたのはほんのわずかな人数だったと分かった。ただしフィットネスセンターでは 4 ％の人にドーピング経験があり，デンマーク自転車連合で行われた独自の調査では予想以上に興奮剤類の使用が多かったという結果がでている。これは毎年約1000件の検査中 5 ～12人が陽性で，そのほとんどは筋力トレーニングかフィットネス運動の参加者だとする DIF 独自のドーピング検査の結果を裏付けている。年間1000件の検査のうちおよそ 3 分の 2 が大会以外で行われ，少なくとも 5 ％は海外でトレーニング中のトップアスリートに対して行われる。1999年に最も多くの検査をうけたスポーツは，自転車，水泳，アイスホッケー，体操，

ウェイトリフティング，ハンドボール，パワーリフティング，サッカー，バレーボール，そしてバドミントンだ。

(18) Television broadcasting rights（テレビ放映権）

チームデンマークが設立された際に，テレビ放映権の販売から得られる収入がエリート育成機構の主な財源となることは，政略上必要な条件だった。そのため国内連盟やDIFはそこに所属するスポーツ団体のイベントのテレビ放映権を売る権利を，チームデンマークに譲り渡した。そしてチームデンマークはDIFのメディア委員会とともに，テレビ放送するチームと価格について国内連盟を代表して放映者と交渉するようになった。

しかしデンマークのテレビ局にとって飛びぬけて魅力的なサッカーに関しては，デンマークサッカー機構自体が放送契約を交渉している。現在，ナショナルチームの国内試合は公共放送局であるDRとTV 2に販売されているが，クラブレベルのサッカーは民間放送であるTV 3に販売されている。その契約は2004年まで有効で，年間7000万DKKをデンマークサッカー機構とサッカークラブにもたらす。その他の国内連盟は平均で年間1200万DKK，総額5950万DKKの5年の放送契約をDRやTV 2と結んでいる。2001年まで有効な契約には，ハンドボールの独占放送権や，イベントの際に最初に放映権を要請できる権利が含まれている。毎年DIFのメディア委員会は放映権から得た利益をサッカー以外の連盟に分配する。その分配は放送された件数と，イベントの種類，そしてどのチャンネルで放送されたかによって決まる。また，各テレビ放送に対して前もっていくら支払われたかによっても決まる。ハンドボールはサッカーの次に魅力あるスポーツで，前もって相当な額を受け取っている。チームデンマークは放送収益の50%を受け取っているが，クラブレベルでの試合放送からは25%を受け取っているにすぎない。さらに毎年125万DKKの共同基金が作られた。この基金はとりわけ国内連盟のメディア対応訓練計画の財源となり，またテレビ放送に適するようにスポーツ競技を改善していくことに使われる。ここ10年間テレビ放送はサッカーやハンドボールなどの限られたスポーツだけを取り上げており，その他のスポーツは放送されるのが難しかったため，この傾向を変えようというのが目的である。DRが多くの異なるスポーツを放送するスポーツサンデという番組を放送したこともあって，ここ2，3年でその傾向はかわりつつある。1999年DRは20種類のスポーツを放送したのだ。

最後にデンマークがEUの指示である「制限なきテレビ」を大きなスポーツイベントに関して実行していることにも触れておく。デンマークは国民的重要性を持つ主要なスポーツイベントでのリストを作成し，それらのイベントは国営で契約のいらないテレビで見られると保証している。このリストにはオリンピックや，男子のサッカーワールドカップとヨーロッパカップにおける準決勝や決勝およびデンマーク戦とデンマークの出場権をかけた予選の試合，男子および女子のハンドボールのワールドカップとヨーロッパ選手権における準決勝や決勝およびデンマーク戦とデンマークの出場権をかけた試合が含まれる。

(19) The administrative structure of DIF（DIF の行政機構）

DIF は，90人の常勤スタッフを擁し，彼らはそのスポーツセンターが稼動するための25の部署に配置されている(それは清掃，受付，メンテナンスなど)。DIF には，開発部・「スポーツ・フォー・オール」部・様々な立法や規則に対処するコンサルタント部の３つの大きな諮問セクション部がある。事務局は国際関係および全国政治的な関係を担当している。経理および管理部は，印刷および郵便業務を含むスポーツセンターの経理，IT 操作およびサービスを責務とする。別個の IT プロジェクト部は，包括的なスポーツ結果サービスを含むインターネット上の電子サービスの開発を受け持つ。このサービスはたくさんのスポーツの中から，レベルの低い競技と同様にエリートレベルの競技まで毎年何十万もの試合結果を配信している。最後に，報道部は，DIF の月刊誌，公的関係，DIF の図書館および DIF のインターネットホームページ（www.dif.dk）を責務とする。

(20) The 56 nation federation（56の国の連盟）(注3)

デンマーク（アメリカン・サッカーおよび野球ソフトボールを含んで）アメリカスポーツ連盟。デンマーク労働者スポーツ連盟。デンマークアスレチック連盟。デンマークオートモービル連合。デンマークバドミントン連盟。デンマークバスケット連盟。デンマークアマチュア・ボクシング協会。デンマークサッカー協会。デンマーク卓球連合。デンマークボウリング連盟。デンマークレスリング連合。デンマークアーチェリー連盟。デンマーククリケット連盟。デンマークカーリング連盟。デンマーク自転車連合。デンマークハンググライダー連盟。デンマーク体操連盟(トランポリンを含む)。身体障害者のためのデンマークスポーツ連盟。デンマークホッケー連合。デンマーク柔道連合。デンマークカヌーおよびカヤック連盟。デンマーク空手連盟。デンマーク９ーピンボウリング連盟。デンマーク軍事スポーツ連盟。デンマークミニゴルフ連合。デンマークモータースポーツ連合。デンマークミニタリースポーツ連盟。デンマーク近代五種競技連盟。デンマークトライアスロン連盟。デンマークオリエンテーリング連盟。デンマークペタンク連盟。デンマーク乗馬連盟(アイスランド馬協会を含む)。デンマークボートレース連盟。デンマークラグビー同盟。デンマークヨットレース連盟。デンマークスキー連盟。デンマーク民族舞踊家連盟(ダンスを含む)。デンマークスケート連合(ローラースケート連盟を含む)。デンマーク水中スポーツ連盟。泳がせることおよび人命救助連盟。デンマークテコンドー連盟。デンマークテニス連盟。デンマーク水上スキー連盟。デンマークバレーボール連盟。デンマーク重量挙げ連盟

３．まとめ

この小冊は DIF の機関紙で，多分に DIF の PR を兼ねたガイドブックの趣を拭えない。しかし多年にわたりデンマークのスポーツ，とりわけバドミントンと関わってきた筆者としては，明瞭かつ簡潔な構成に納得させられ，また DIF の資金調達をはじめ，その運営方法に興味を持った。

DIF の機構，構成等においては，ヨーロッパの中でもよく整備されているといわれる（ラファエル・サシェタ　2003)。

特筆すべきは，(1)登録人数が多い連盟・協会が強い発言権を持つ。(2)各連盟（協会）の自治が尊

重されて(3)チームデンマークへの優秀選手の推薦権等に立憲君主国家ではあるが，民主国家としての制度が見られる一方，(1)強化費の配分。(2)オリンピックへの厳しい参加基準等において実力（効率）主義的なところが見られ，それが相まって，オリンピック等でのトップアスリートの育成にもつながっているといえる。

2000年シドニーオリンピックでは，金２・銀３・銅１計６個のメダルを獲得している。ちなみに，人口比で約20倍ある日本は，金５・銀８・銅５の計18個である。2004年アテネにおいては，金２・銅６の計８個のメダルを獲得している。

薬物ドーピングについて，他の項目に比べ２倍のページ割いて記述している所にも，スポーツの公正さに対する並々ならぬ取り組みがうかがえる。

バドミントンにおいて，デンマークは，ヨーロッパで唯一アジア勢（中国・インドネシア・韓国・マレーシア）に肩を並べている「バドミントン先進国」である。各地にある専用競技場，年齢に応じたナショナルチームトレーニングセンターの存在など，日本にとってうらやましい環境が揃う。また，他の協会と同様，デンマークバドミントン協会は，優秀な選手を選抜して，スポーツ省が後援する「チームデンマーク」とよばれる養成機関に招き，コペンハーゲン近郊のブロンビーにあるキャンプに入れる。この宿泊，診療所は無料。競技大会への出場費用も支給される。（ただし，生活費は支給されない。）現在は35名がナショナルチームの練習生として入所している。現在の登録会員数は123000人程度だが，この国で定期的にシャトルを打っている人の数は400000人を上回るといわれている。これは，なんと全人口の８％にもなる数だ。ちなみに，この国でもっとも登録メンバーが多いのはサッカーで，バドミントンは，ハンドボール・体操・水泳についで５番目である。しかし，若手選手の減少が伝統的に強かったデンマークバドミントンの将来に暗い影を投げかけている。トマス・ルンド会長はその理由について，「バドミントンは金にならないというのが，最近若い選手が減っている大きな理由だ。」と嘆く（ラファエル・サシェタ　2003)。「先進国」といえど，こうした問題を抱えていることの事実も認識しなければならない。しかし，筆者は，数多くのデンマークのプレーヤーに接して，彼らがそれぞれ自分の目的意識をもち，バドミントンアスリートとしてのコートマナーを含めた立居振舞に，誇りと全人格的な社会性を備えていることを強く感じる。

また，三度（1999・2000年はコペンハーゲン市，2003年はアルス市）の遠征中，市内を散策した際，あるいは移動中の車窓からはサッカーに興じる子供たちや，ジョギングをする様々な人々，犬を連れ散歩する老人や女人，手をつなぎ公園の中を散歩する老夫婦，老若男女を問わずトレーニングジムで各自のトレーニングメニューをこなす多くの人々など，環境にとけ込み“生きている”と感じる人々の多いことに驚いた。それは，ほぼヨーロッパ全体に浸透している「スポーツ・フォー・オール」の普及で，国民の実に75％の人々が何らかのスポーツに関わっているという事実を再認識することでもあった。また，いろいろな分野で財を築いた，或いは一線を退いたシルバー層の人々が，再教育を受けている光景を目にし，「スポーツ・フォー・オール」が知育・徳育に深く影響していることも推察された。

初老の紳士，ラルフ・ニールセンが現状のデンマークゴルフ連盟について「まだまだ満足していない。」と温厚ではあるが，少年のような目で将来を見据えたように話していた姿や，世界チャンピ

オンにもなったデンマークバドミントン協会会長のトマス・ルンド氏が大会会場で雑用をしている時，筆者が「会長がする仕事ではないよ。」と言ったことに対して，「今，バドミントンに恩返しができるようになったからね。」と謙虚ではあるが堂々とした態度で答えてきたことに，この国の心の豊かさを感ぜずにはいられなかった。

国民性の成因については，社会学，心理学，文化人類学，生物学等の各分野での諸論・諸説があるが，それらを簡潔に集約すると，地理的・歴史的・社会的成因になろう。北欧という地理的条件の中で勇猛果敢を誇り北欧・バルト海の覇者となったヴァイキングの末裔が，宗教革命・三十年戦争・絶対王政・ナポレオンとナチスドイツの侵攻等による歴史的背景・変遷（橋本淳　1999）の中で現在の国民性をもつに至ったことは，容易に推察できよう。また，いち早く福祉国家の道を歩み，現在では世界に冠たる福祉先進国家になったことは周知の事実である。そして，社会的成因の一つとして，(15) スポーツの社会的責任の中で，DIF はスポーツを文化的・国民的活動であると明言し，「より団結力のある社会を生み出すことに貢献できる」としていることからも，「スポーツ・フォー・オール」という土壌のもとに，現在のデンマークの国民性が培われていると言えよう。

最後に筆者は，異境の地ということで多少の欲目もあろうが，北欧の自然環境と伝統文化の中であくせくせず，自分自身を見つめながら生きている多くの人々に接している中で，「生涯スポーツ」という観点から，デンマークの福祉国家としての社会制度，とりわけ寝たきり老人の数，形態等に興味が湧いてきたことを付記したい。

（こじま・かずお　社会福祉学科）

〔注〕

(1)「スポーツ・フォー・オール」とは，国際的には「みんなの生涯スポーツ」という意味合いをもつ。一般大衆の「だれもが」「いつでも」「どこでも」スポーツや身体活動に参加できる権利を享受できるというヨーロッパ生まれの考え方は，ドイツ・イギリスを中心として世界に広がり，少なくとも90カ国以上の国々が，「スポーツ・フォー・オール」を政策に取り入れて，生涯スポーツの進行事業を行っている。(山口泰雄　1996)

(2) DDK はデンマーククローネという通貨の名称で現在 1 DDK＝19円（当時は17円）位である。

(3)現在は，登山連盟が傘下にはいり57の連盟(協会・連合)からなっている。

〔文献〕

(1)橋本淳編　1999年「デンマークの歴史」創元社

(2)青柳栄次　2000年「ローバルアクセス　世界地図帳」昭文社　P. 138

(3) Morten Molholm Hansen　2000年「Sports in Denmark」The National Olympic Committee and Sports Confederation of Denmark (DIF) P. 1～47

(3)ラファエル・サシェタ筆（齋藤誠　訳）2003年「バドミントン王国デンマークの光と影」バドミントンマガジン　ベースボールマガジン社　12月号　P. 74～75

(4)山口泰雄　編著　1996年「健康・スポーツの社会学」建帛社　P. 137

A consideration about sports in Denmark

Kazuo KOJIMA

This small paper examines about Danish sports from the following viewpoints.

(1) From the bulletin "Sports in Denmark" published by The National Olympic Committee and Sports Confederation of Denmark (DIF).

(2) From the writer's experience of visiting Denmark three times.

(3) From conversation with Lars Dahl - Nielsen and Thomas Rund.

Under the slogan "Sports for all", 75% of the Danes are doing some sports. Translation of the book "sports in Denmark" makes it clear that sports in Denmark is concerned with its society deeply.

Then it can be said that this environment is one of some factors which have some influence on the Danish national character.

Key words: "Sports for all", DIF, National character